

意見提出フォーマット

意見提出元	特定非営利活動法人 ITS Japan
-------	---------------------

意見項目	意見内容
(1) ワイヤレスブロードバンドの今後の展望(2015年ごろや2020年ごろのワイヤレスブロードバンドのサービスイメージ、システムイメージなど)	ITSにおける一つの今後の発展システムとして、協調型システム(路車間通信、車車間通信、歩車間通信、等)が交通安全を中心に開発、実用化されてきている。2015年から2020年においては、更にこれらのシステムが複合化(例えば路車・車車通信、歩路車通信)し、適用分野も交通安全の事故防止だけでなく、環境(CO2削減)、快適・利便の分野に広く応用されていくべきである。
(2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題(周波数の確保、国際標準化・研究開発の推進、利用環境の整備)	ITSのベースは人と車と道路(広義には鉄道、船舶、航空機含む)を通信で結んで必要な情報をやり取りすることであり、この点から通信はITSの核となるものである。今後のITSの発展を鑑みれば、より大容量で高速な通信が必要になる。また、わが国においてもITS向けの周波数、通信方式が設けられており、協調型システムもこれらをベースに発展していくであろうが、ITSにおけるブロードバンドの活用においては、周波数の確保、国際標準化等、海外とのより強い連携が重要と考える。
(3) 関連する国内外の動向と課題	協調型システムは日本のみならず、欧州や米国においても国の主導で開発・実用化が推進されている。欧州では、欧州委員会から欧州ITSアクションプランが通達され、協調型システムの開発、標準化等の取組みが優先行動領域として組み入れられている。米国では、IntelliDriveと称し、協調型システムを中心としたプロジェクトがUSDOTで展開されている。更に、USDOTはITS戦略プランを発表し、ここでも協調型システムの開発実用化が重要な位置を占めている。これらの点から、今後は、競争と共にグローバルな連携が重要になると考える。
(4) その他、将来のワイヤレスブロードバンドによるサービスやシステムに関する事項	ITSによる人とモノの移動のグリーン化が進展し、車の情報(ex.位置、時刻、速度、他)をセンターに集め、それを交通情報や動的経路誘導等に应用するプローブ情報システムの拡大やスマートグリッドと次世代車が適合した新交通システム社会が誕生すると思われる。